

令和6年度

第14回

子ども議会

千葉開府900年を

迎えるにあたって

第14回千葉市子ども議会は、「千葉開府900年を迎えるにあたって」をテーマに、小学校5、6年生の子ども議会議員が6グループに分かれ開府900年を盛り上げる事業の提案や千葉市の未来を考えた意見を伝えました。

全4回の学習会を通して話し合いを重ね、グループの提案内容を精選し、当日に向けて準備しました。第2回学習会では、市の担当者に提案に関わる事業について直接質問したり、提案に関わるアドバイスをもらったりしました。

子ども議会当日は、各グループがタブレットPC（ギガタブ）等を活用して提案資料を作成し、大型モニターに資料を映して発表を行いました。自分たちの提案をわかりやすく伝えられるようにポスターや劇を取り入れるなど、工夫して発表することができました。

1 開催の目的

○本市の子どもたちが、本市の現状と課題について話し合い、「市民一人一人がいきいきと幸せに暮らせる街づくり」に向けた具体的な提案や質問を行う中で、千葉市民としての意識を高める。

○子どもの視点から生まれる疑問や質問を、市長・市政に届ける。

2 開催日時 令和6年7月24日（水）9：00～12：00

3 開催場所 千葉市議会本会議場

4 出席者

（1）子ども議会議員43人（公募による市内の小学5、6年生）

ファシリテーター9人（市内の中学生）

（2）市政担当者

神谷市長、大木副市長、橋本副市長、鶴岡教育長、大町こども未来局長

（3）市議会議員

石川議長、麻生副議長、三井教育未来委員長、須藤教育未来副委員長

5 内 容

(1) 学習会 ～子ども議会開催に向けて～

第1回学習会では、市長より本市の現状や取組、課題についての話をしていただきました。

第2回では、正庁にて、提案に関わる市の担当者に直接話を聞き、提案内容を具体的に検討しました。

第3回では、グループごとに集まり、発表原稿やスライドを作成し、提案に向けての準備をしました。



＜神谷市長講話「考えよう！千葉開府 900 年」＞



＜市の担当者との提案内容に関する学習会＞



＜グループごとに提案発表の準備・練習＞

(2) 子ども議会当日

グループごとに工夫した発表を行い、「千葉開府 900 年を迎えるにあたって」千葉市を盛り上げる事業等についての提案をしました。



＜中学生のファシリテーターによる進行＞



＜大型スクリーンに資料を映して提案＞



＜グループで提案する子ども議会議員＞



＜市長の答弁を聴く子ども議会議員＞

(3) 提案・質問の内容

①「千葉氏一族の伝統グループ」

- ◇亥鼻城周辺の地図の作成や千葉市の特産品をみんなで調理する等、参加者で協力し合うイベントの企画について提案します。
- ◇千葉氏が統治していた時代の行事を体験したり、伝統を引き継いでいるものや設備などを見学したりする活動の企画や、AIを活用した「常胤じい」を使って、SNSを活用し、ツアーで体験したことを全国へ発信することについて提案します。



- 千葉市内には千葉氏ゆかりの場所がたくさんあります。現在、そうした場所に説明板を設置する事業を進めておりますが、ツアーではそれらの場所を地図に示してみてもできるかと思います。また、千葉市食のブランド「千」についても、素敵なお提案をいただきありがとうございます。「千」は、千年後も豊かに暮らせる千葉市を目指して、生産者・市民・事業者が一体となって育てつなげようとしている、本市の食のブランドです。多くの方に「千」の魅力を体感していただける活動を通じて、本市やブランドへの愛着や郷土愛を高めていきたいと考えています。
- 現在、郷土博物館では展示リニューアルを進めています。千葉一族の歴史をはじめとする本市のあゆみについて、簡単な体験なども含めた楽しみながら学べる展示となる予定ですので、ご期待ください。千葉氏を知ってもらう取組については、動画や漫画「千葉常胤公ものがたり」を制作し、源頼朝を助けて鎌倉幕府の設立にも関わった千葉一族を親しみやすく、分かりやすい内容で紹介してきました。千葉開府 900 年の記念事業では、なぜ千葉一族がこの地を本拠地としたのかなど、皆さんに興味を持ってもらえるような取組をしたいと考えており、いただいたご提案を踏まえ、どのような形であれば実施できるのか検討していきます。

②「豊かな未来の実現グループ」



- ◇保育料補助の拡充やこども食堂で生鮮食品が扱えるようにするシステムづくりについて提案します。
- ◇幕張の浜宝さがしイベント、コアジサシの観察デッキの設置、お浜でスポ GOMI 開催、加曽利貝塚 1 日縄文体験などの企画といった未来につなげる千葉市の魅力発信について提案します。

- 3 歳以上児の保育料につきましては、国が実施している幼児教育・保育の無償化により、令和元年 10 月から無償となっています。3 歳未満児の保育料についてですが、本市では、所得に応じた利用者負担額としていることに加え、国が定める基準額の約 8 割に軽減した額としているなど、利用者の皆様の負担軽減に努めています。こども食堂につきましては、冷蔵・冷凍の保管機能があれば生鮮食品を含めた更に多様な食事の提供ができると聞いています。企業からの協力やアイデアの提供を募るとともに、こども食堂を支援している団体からの意見も聞きながら効果的な方法を検討していきます。
- コアジサシについては、ホームページや市政だよりへの掲載、イベントでのパンフレットの配布及びパネルの展示等により周知を行ってきました。絶滅危惧種であるコアジサシの保護のためにも、多くの市民にコアジサシを知ってもらうことが必要と考えています。「スポ GOMI」は、ごみ拾いにゲーム性を持たせることで、大人から子どもまで楽しみながら環境問題に気づくことができる素晴らしいアイデアであり、大変参考になります。加曽利貝塚博物館では「体験」を重視しており、火おこしのデモンストレーションや勾玉作り、組み紐作りなど、様々な体験プログラムを用意しています。今後も、加曽利貝塚の魅力をより多くの方に感じていただけるよう努めていきます。

③「多様性を認め合えるまちづくりグループ」

◇LGBTQ+に関する理解を広めるための広報活動として、LGBTQ+に関するイラスト漫画の、千葉市のキッズ向け HP のトップサイト掲載について提案します。

◇互いのよさを認め合える交流の場の充実を図れるように、親子三代夏祭りに誰でも担げるおみこしを用意することについて提案します。



○千葉市でも一人でも多くの方にLGBTQ+について理解してもらうよう、男女共同参画センターで市民向け講座を開催したり、LGBTQ+専門相談の実施や、千葉ロッテマリーンズなどのプロスポーツの開催に合わせた啓発グッズの配布などを行ったりしています。また、子どもが気軽に読むことができるよう、身近な人権の話題について漫画で描かれた啓発冊子を作成し、千葉市立の全小学校に配布しています。提案をいただいた、小学校に配布した漫画の掲載は、権利の関係でできませんが、まずは、子どもへのLGBTQ+に関する理解の広がり期待できるコンテンツをキッズページの「市役所『しごと図かん』」などの現在作成されているメニューの中に掲載する方法で、対応を検討します。

○段ボールおみこしのアイデアはとても素晴らしいですね。様々な方々と共に、心を合わせておみこしを担ぐ楽しさを味わっていただけるよう検討していきたいと思います。国際交流協会では、姉妹都市の青少年交流で、千葉市にきた生徒たちがおみこしに参加できるプログラムを用意しているほか、祭りの案内や、踊りの練習をした上で、祭り一番の見せ場でもある千葉おどりに参加してもらう取組もしています。また、会場の一つであるきぼーるに車いす利用者をはじめとした障害者も使用できるバリアフリートイレを用意するなど、誰もが参加できる祭りづくりを進めているところです。

④「文化に親しむまちづくりグループ」



◇千葉市にゆかりのある多種多様なスポーツ選手が千葉公園に一堂に集まるスポーツイベントの開催について提案します。

◇千葉市の文化施設の歴史を感じながら巡っていくツアーイベントについて提案します。

○千葉市にゆかりのあるスポーツチームやアスリートと連携して実施する「学校訪問事業」では、皆さんの小学校、中学校等で選手と触れ合う機会づくりを行っています。また、新たなスポーツの楽しみ方の発見に繋がる取組として、様々なビーチスポーツの観戦と体験ができるイベント「ジャパンビーチゲームズフェスティバル千葉」を開催し、ゆかりのアスリートにもご参加いただくなど、様々な取組を実施してきました。千葉開府900年を、スポーツ環境を充実させるチャンスととらえ、スポーツの体験イベントや多様なアスリートと触れ合える企画など、皆さんからいただいたご提案を参考に、多くの市民が気軽に参加し、スポーツに親しんでいただけるような機会をつくれるよう、幅広く検討を進めていきます。

○市民の皆様が、本市の魅力についてより深く知ることは「満足度の向上」と「郷土への愛着」につながるものととらえています。各スポットを巡ることで、本市の様々な魅力に触れてもらえるとうれしいです。小学生ガイドについては、学校での学びの発展になるようにスポットとなる文化施設周辺の学校から希望者を募ったり、小学生の皆さんの想いが伝わるように文化施設の方とも連携してガイド研修を行ったりすることを検討できればと思います。モノレールについては、貸切列車に加えてオプションで車両基地の見学もセットにしたツアーも可能です。このご提案をモノレール会社とも情報共有して、その実現に向け検討していきたいと思います。

⑤「地域社会を元気にグループ」

- ◇運動したり、スポーツを観戦したり、お祭りに参加したり、日常の楽しみを、地域の誰かと共有できる「人と人がつながれるアプリ」について提案します。
- ◇千葉城や千葉公園の大賀ハス、富士山が見える海岸などの場所に、スタンドと看板を設置する「SNS映えスポットの看板設置」について提案します。



- ポイント対象事業につきましては、地域が実施している花壇づくりや親子三代夏祭りのボランティア活動、また、一人一人が無理なく取り組める健康づくりとして、ちばしウォーキングポイントなどがあり、令和6年3月末時点で累計約150の事業を実施しています。こうした活動に参加することで、新たなコミュニティの形成にも寄与するものと考えています。今後、ちばシティポイント実証実験の結果を検証していく際には、人と人のつながりから日常の楽しみを地域の誰かと一緒にすることで得られる喜びという視点も大切にしながら、地域社会が元気になるような取組を進めていきたいと考えています。
- 千葉市では、観光プロモーションとして、SNSのXを使った発信をしており、その登録者数は現在、約6万6千人で、政令市の中でも最も多い登録者数となっています。SNSによる情報発信は効果的ですが、その活用にあたっては、「投稿回数」と「情報発信の質」の両方がそろって初めて見る人の満足につながるものと考えています。SNS映えする写真の投稿は視覚でとらえやすくインパクトが大きいことから、ご提案にあるようなカメラスタンド等の設置も、多くの方にそのスポットを紹介してもらうための仕掛けとして参考になるものだと思います。より効果的な手法を検討し、さらなる千葉市の魅力発信に努めていきます。

⑥「千葉市4つのルーツグループ」



- ◇海辺と千葉氏のキャラクターの作成と千葉市が誇る4つの名所（加曽利貝塚、千葉公園、千葉城、幕張の浜やいなげの浜）を巡るスタンプラリーの企画について提案します。
- ◇幕張ビーチ花火フェスタ（海辺）を盛り上げる、4つのルーツをかたどった花火やドローンアートについて提案します。

- 「ちはなちゃん」や「かそりーぬ」などのキャラクターは、市民の皆さまに親しみを感じてもらうことで、オオガハスや加曽利貝塚への理解を深めてもらうことを目指しています。一方、千葉氏や海辺については、特定のキャラクターは定めていませんが、漫画や動画などにより、親しみやすく、分かりやすい内容を発信しています。今後、すでに市民に親しまれている「ちはなちゃん」や「かそりーぬ」を千葉氏や海辺を含む市全体のPRに活用することや、新たにキャラクターを作成した際の効果や活用方法などを検討したいと思います。スタンプラリーについてですが、多くの人に4つのルーツを知っていただき、訪れてもらうためには、大変有効な取組だと考えています。これから行っていく取組の参考にします。
- 「ルーツ」をかたどった花火については、“千葉市らしさ”を効果的にPRできることに加えて、4資源の形を表した花火が「花火フェスタ」そのものの魅力と価値を高めることにもつながると考えられることから、花火を製造する事業者などを含む関係者と検討していきます。ドローンアートの導入については、これまでに市内のイベントで実施された例もあり、「花火フェスタ」をさらに盛り上げ、より多くの皆さんにこの夏のイベントを楽しんでもいただける演出として、素晴らしい提案であると考えます。ドローンを取り巻く環境を見据えながら、千葉市の夜の魅力を高めるコンテンツになるよう研究していきます。

6 神谷市長の講評

ここ千葉市議会議場では、市議会議員の皆さんと私たちで、今の千葉市そして将来の千葉市のために取り組むことを議論し検討しています。今回の子ども議会では、皆さんが作ったギガタブの資料やポスターで詳しく提案や質問をしてくれました。4回の学習会を重ね、学校の枠を超えた学びを通して、千葉市の課題をよくとらえられていたことに敬意を表します。全体として、千葉市の魅力についてどのように工夫して伝えていくべきなのか、市民の皆さんが文化活動をしていく上でどのようなことが必要なのかについて、ご質問をいただきました。イベントの具体的な内容やデジタル技術の内容についてもふれられており、時代的な内容もありました。生成AIや動画など、新しい手法・技術を使って市民の皆さんに取組を伝えていきたいという強い思いが伝わりました。どのグループの提案も日頃の学校生活、ご家庭での生活から生まれてきた地域の課題をとらえていました。街は与えられるものではなく、自分の意見や提案によって自ら変えていくことができると思っています。そういった感覚をもっていたけると幸いです。

本日の子ども議会では、ファシリテーターの中学生の皆さんにサポート役を務めていただきました。子ども議員だった方がファシリテーターとして参加いただいていると伺いました。千葉市の街づくりに参加しようとする意識がしっかりと引き継がれていることを心強く思っております。今後も千葉市の未来を担う子ども達が、主体性をもって地域をどうすればよくしていけるかについて、考えていってくれることを期待しています。

今千葉市では、みんなが輝く都市と自然が織りなす千葉市の実現に向けた取組を進めています。教育分野ではICTなどの技術を活用することで、今までできなかった教育活動ができています。社会環境の変化をしっかりと受け止めて、子ども達が千葉市で学んでよかったと言ってもらえるような取組を進めていきたいと考えています。先行き不透明な中で、子ども達が次の世界を拓くためには、自分の考えを周りに広げ、共感をもって共に課題について取り組んでいく姿勢をもつことが大切だと思います。そのための支援をこれからも強化していきたいと思ひます。子ども議員の皆さんには、これからも千葉市の取組、また市議会での議論に注目をしていただきたいと思います。

7 子ども議会議員の声から

※一部を抜粋しています

自分たちが住んでいる千葉市をよりよくするために、みんなで考えた提案を神谷市長に聞いてもらえて嬉しかったです。話し合いを行うごとに他の小学校の友達との仲が深まっていきました。

千葉市の歴史やよさ、4つのルーツについて改めて考えることができました。千葉市がもっと好きになったし、自慢に思うし、これからも千葉市の魅力をもっと知りたいと思いました。

8 提案の実現に向けて

こども・若者の力 ワークショップ

「やっぱりわたしは千葉が好き！」

～千葉市の魅力再発見～



＜千葉氏関連史跡の見学＞



＜活動の様子＞

「千葉一族の伝統」「文化に親しむまちづくり」両グループの提案を受け、「こども・若者の力 ワークショップ」において「千葉氏の歴史クイズラリー」開催を目指し、市内の小中学生15名が活動しています。イベント開催時は、自分たちで考えた千葉氏クイズの出題や、千葉氏関連史跡について「こどもガイド」として参加者に説明をする予定です。